

平成27年度公益社団法人静岡県茶業会議所事業計画

当法人は、静岡県における茶業界を代表し、その振興を図るため静岡茶振興方策を樹立推進するとともに、静岡県茶業に携わる関係団体相互間の連携協調を図り、併せて我が国茶産業の興隆と日本茶文化の継承発展に寄与することを本会の目的として掲げている。

静岡県茶業の10年後のあるべき姿を見据え、生産構造の強化、流通の改革や消費拡大戦略体系を確立するとともに、公益目的事業の比率を高め、地域社会に貢献できる公益社団法人を目指します。

このため、生産者も茶商も、また産地間競争にあっても、一致協力できる分野は、消費拡大策や新たな需要開拓・商品開発であると考え、それを体系的に展開していくため、引き続き「茶業振興5路線」を着実に展開します。また、静岡茶の販路開拓や商談会については、県行政と茶業界が「オール静岡」で取組ます。

本年度は、茶のオールジャパンでの輸出拡大のため、昨年12月に「日本茶輸出促進協議会」を立ち上げ、日本茶業中央会が事務局となり、農水省やジェトロによる支援を受け日本茶の輸出を推進する。また、会員団体である、当法人も残留農薬対策等の輸出環境整備、日本茶の機能性を紹介する「英語版」の作成や海外輸出戦略を検討する。

イタリアミラノで開催されるミラノ国際博覧会において、静岡県や日本茶業中央会が緑茶のPRイベントを実施するが、当法人も積極的に関与し静岡茶や和食文化を世界にPRする。

平成27年4月より、国が導入する食品の新たな機能性表示制度にあわせ、緑茶の機能・効能をPRし、消費者の健康にかかわる食品として需要開拓を図っていきます。

平成27年11月静岡市において、第69回全国お茶まつりが静岡市で開催をします。全国の生産・商工業者や一般消費者に対して、他県にない様々な取組等を紹介し、静岡茶の魅力を積極的にアピールし消費拡大を推進します。

引き続き「静岡茶流通センターの設置に関する基本方針」の実現に向け静岡茶流通改革委員会、プロジェクト会議、作業部会の検討を踏まえ、(仮称)静岡茶流通センター構想の策定・各団体等組織討議のうえ、構想案・取引規程を取り纏めます。

1 公益目的事業 全体予算額 126,863千円（共通経費 32,909千円含む）

（1）明日のしずおか茶育成事業 予算 19,600千円

① しずおか茶安心づくり事業 予算 3,100千円

ア 茶の生産・製造工程管理の推進 予算 300千円

静岡茶の信頼と信用を一層強固なものとし、消費者からの支持を獲得するべく、茶生産者並びに茶商工業者を対象にT-GAP並びにT-GMPの普及推進を図る。

JGAP基準書の改定が予定されているので対応できるよう準備を進める。

イ 静岡茶衛生管理者の普及

予算 2,600千円

クリーンかつ安心で安全な静岡茶を提供するため、茶の生産と製造に関わる者の食品衛生の意識改革と徹底した衛生管理を導入・定着するべく、茶の衛生管理に関する養成講座と認定試験を実施し、衛生管理者の養成と普及を図る。

食品表示法の施行に対応し、テキストの改訂を実施する。

また、現在「静岡茶衛生管理者」の資格を有する者に対しては、スキルアップのための研修会の開催やメールマガジンによるサポートを行う。

ウ 安全・安心にかかる広報資料の作成

予算 200千円

食品表示法の施行等、制度改正かかる広報資料を作成する。

② しずおか茶ファン創出事業

予算 10,000千円

ア 「こどもお茶学ぶ」講座の開催

予算 4,500千円

県内小学生を中心とした幅広い消費者に対して、静岡県のお茶の歴史や生産、効能等の幅広い学習や美味しいお茶の淹れ方教室を実施し、未来の静岡茶ファンを確保する。

イ 「和産和消」の普及推進による静岡茶のPR

予算 2,000千円

市町、各団体等と連携して、季節や場所・時間にあった静岡茶のキャンペーンを実施するとともに、新東名高速等のSAやPAのような県内外の人が集まる場所にて静岡茶のPRをする。

ウ パンフレットの発行

予算 1,000千円

静岡茶の産地、製造法、歴史、効能機能性、安全性などを説明するパンフレット等を作成し、配布する。

エ メディア等を活用した静岡茶のPR

予算 2,500千円

テレビ、ラジオ、新聞等各種メディアを活用し、本県の茶に関する産業・文化・学術などをPRし、静岡茶ブランドの強化を図る。

③ しずおか茶販路開拓事業

予算 6,500千円

ア 茶の効能等のPR

予算 2,000千円

日本を、日本人を元気にするため、茶学術研究会と協働で、茶の効能を広報し、嗜好飲料としてだけでなく、生態調節機能を有する保健飲料としてPRし、静岡茶の更なる消費の拡大と理解に努める。

このため、静岡市で開催される全国お茶まつりにおいて、機能・効能の講演会を開催するとともに、日本茶の機能・効能を海外にも発信し、国内外に日本茶の販路強化・拡大とファン発掘を図る。

イ 消費地茶商等との連携による静岡茶の販路強化・拡大 予算 2,000千円

消費地茶商等や異業種業界と協働で国内外等のイベント等に出展し、静岡茶のPRをするとともに、各家庭への急須の普及を図り、静岡茶の販路強化・拡大とファン発掘を行う。

なお、グローバルな視点に立った販売戦略とマーケティング、静岡茶の安全性、保健機能、歴史・文化等々について、普及啓発を図っていく。

ウ 静岡茶ブランドのグローバル化（新規） 予算 1,000千円

静岡茶ブランドを海外にPRするために、国際的なイベント等に出展する。

エ 食品表示新制度の普及（新規） 予算 500千円

平成27年4月より国が導入する食品の新たな機能性表示制度に合わせ、会員が求める消費者庁が公表したガイドラインに即した表示に対応する相談窓口を設け、あらたな静岡茶の消費拡大を図っていく。

オ 静岡茶流通改革への取組 予算 1,000千円

昨年に引き続き「静岡茶流通センターの設置に関する基本方針」の実現に向け静岡茶流通改革委員会、プロジェクト会議、作業部会の検討を踏まえ、(仮称)株静岡茶流通センター構想の策定・各団体等組織討議のうえ、構想案・取引規程を取り纏めます。

(2) 茶業振興事業

① 広報・情報収集、発信事業 予算 800千円

本会が実施している事業の告知のため、広報誌を発行する。

② 茶業振興対策事業 予算 2,000千円

茶業功績者表彰、県内各地で開催される各種茶業大会、品評会等への表彰状・副賞の交付を行い、茶業の振興に資する。

③ 茶の効能研究及び「新版 茶の機能」発行事業 予算 3,000千円

ア 茶の効能研究 予算 1,000千円

静岡県立茶学総合講座における調査研究及び人材育成を行うため、奨学寄附を行う。

イ 「新版 茶の機能」の普及推進 予算 2,000千円

平成25年11月に発刊した「新版 茶の機能」を関係者で、総学習し販売力強化に活かすため、消費者にクチコミ一斉運動を実施する。

また、執筆者によるセミナーや講演会を開催し、茶の機能・効能をPRする。

茶の機能・効能に関する英語版の冊子を作成し、海外でのPR資料としてとりまとめている。

④ 情報誌・茶業図書の発行事業

予算 34,074千円

ア 月刊誌「茶」の発行

月刊誌「茶」は、茶の総合誌として生産から流通に至る茶業全体を視野に入れた編集に心掛けるとともに、茶業関連情報発信の源として内容の向上に努める。

購読者数は、生産状況が厳しいため全体的には微減傾向であるが、読んでためになる、購読したくなる「茶」誌の編集を目指し、新規購読者の獲得に努める。また、主な収入源である広告収入の増加に努める。

イ 茶業関連図書の発行と販売について（新規）

昨今の緑茶の製造は、制御盤をセッティングするだけで、一般的な茶の製造は可能である。一方で、根本的な製造技術、理論等について熟知している生産者は減少しており、研究者並びに製造技術の基本をマスターした熟練者も同様に減少の一途である。

そこで、製造技術を熟知している研究者のプロの技（基本技術）を一冊の本に纏め、「茶生産の最新技術（製造編）」として刊行し、茶の製造技術の更なるレベルアップを図る。

また、引き続き「新・目で見る茶の病害虫」をはじめとした茶業関連図書の販売に努める。

⑤ 委託事業

予算 35,019千円

本県茶業を維持・発展していくため、消費者ニーズに対応した良質茶の生産、基盤整備・改植の推進、品種茶の生産拡大、全国茶品評会の開催など特色ある茶の生産を積極的に進めるとともに、安全・安心な茶づくりをすすめ、静岡茶ブランド力の強化を図るため、静岡県経済農業協同組合連合会へ委託して事業を実施する。

また、静岡茶の販売力強化を図るため、茶どころ静岡のPRに努め、本格的な緑茶ファンの獲得と茶専門店の活性化のための普及推進事業やリーフ茶の需要を喚起するための需要開拓を図るとともに、消費地専門店と連携してより効果的宣伝活動を実施するため、静岡県茶商工業協同組合へ委託事業として実施する。

日本茶の輸出に関する情報収集や発信に関することや日本茶輸出先国の残留農薬基準への対応等輸出環境整備に関して、日本茶輸出促進協議会より委託を受け、事業を実施する。

ア 生産対策委託事業（県経済連へ委託）

予算 10,615千円

(ア) 静岡茶安心づくり事業

JGAP審査員補取得研修、及びT-GAP導入指導、JGAP取得指導を実施する。

- ・生産者指導研修・茶工場実地指導

JGAP審査員補取得研修を実施し、T-GAP評価員の増加を図り、T-GAP及びJGAP取組み推進を図る。

- ・JGAP審査員補の研修会を開催し、現場での指導を行う上での資質向上を図る。

(イ) 静岡茶計画的生産対策事業

・生育、生産流通調査

県内外生育調査を実施し、茶期別生産対策資料を作成し、生産指導を実施する。時期別生産対策資料を作成し、静岡県JAグループHP内農畜産別情報『茶』“あぐりんく静岡”に掲載し生産指導の徹底を図る。

各茶期別生産統計調査（荒茶・生葉価格）を実施し、茶況見通しと生産予測の判断材料とし、的確な情報提供などを通じて生産指導に役立てる。

・良質茶生産指導及び県内で生産される茶の特質を明らかにするとともに、安全・安心な茶生産に関する技術の向上及び、本県茶業の安定的発展を図ることを目的として、全国茶品評会を開催する。

(ウ) 静岡茶消費拡大事業

「静岡茶」のホームページにて産地紹介、生産者紹介、静岡茶購入等、静岡茶消費拡大を図る。

イ 静岡茶消費拡大委託事業(県茶商へ委託) 予算 20,355千円

(ア) 品評会事業

・静岡茶品評会（鶴亀品評会）開催事業

第51回静岡茶品評会を開催し、消費者の嗜好に合った仕上茶を供給するための仕上加工技術の研鑽向上と消費市場における本県算茶の声価を高め、良質茶の安定供給体制の基礎を確立する。

・第9回同一荒茶による仕上技術競技会の開催

消費者の嗜好に適合した仕上茶を市場に供給するための加工技術を競い、あわせて他社の特色を観ることにより、今後一層の茶仕上げ技術の向上を図る。

(イ) 販路拡張事業

・新茶キャンペーン

県内外での新茶イベント開催などにより静岡新茶の需要拡大と専門店への誘客支援を行う。

・各種イベントによる消費宣伝事業

県内外で開催される各種物産展や消費者対象イベント等に協賛し、静岡茶の消費拡大のため、喫茶試飲サービスやフリーサンプル、茶に関するリーフレットの配布等により、消費者との直接対話を通して静岡茶の宣伝と購買意欲を喚起促進するPR活動を推進する。

・冷茶飲用・普及啓発事業の推進

県内各地区内で開催される各種イベント等に参加し、冷茶機の貸与や冷茶関連グッズ等を作製して一般消費者に冷茶飲用の普及を図る。

・マイボトルキャンペーン

急須で淹れるお茶の美味しさ、素晴らしさを啓発し、家庭内の消費だけでなく学校、

職場、行楽等外出時に携帯用水筒(マイボトル)にリーフ茶浸出液を入れて飲むことを提案し需要開拓を図る。

・「お茶講座等」の開催

若い女性を中心に新規のリーフ茶購買層や新たな緑茶ファンを開拓するために、リーフ茶の魅力や楽しさを伝えるための講座を開催する。

・茶専門店支援事業

県内の静岡茶専門店への誘客支援を推進する。

・小学生等への淹れ方教室の開催

県内の小学校を主な対象に、子供や一般消費者への「地産地消」「茶育」による意識改革を目的に推進する。お茶のおいしさやお茶の美味しい淹れ方のレクチャーをして、お茶への理解と興味を深め、魅力の再発見、お茶ファンの創出、消費拡大を図るため、茶業青年団、各地区茶商組合、日本茶インストラクター等の協力により実施する。

・静岡県お茶カルタ選手権大会の開催

お茶カルタの旬を通して、県内の小学生へ静岡茶の魅力とお茶文化に触れ合う機会を創出、未来の静岡茶ファン作りを目指す。

・新幹線静岡駅大型看板宣伝

年間を通して、静岡を訪れる方々に“お茶処静岡”の存在感を印象づけるため、JR静岡駅新幹線下りホームに大型看板を掲出する。

・新東名SA電飾看板掲出による静岡茶PR

年間を通じて「静岡茶」をPRするため、新東名上下線静岡SA内LED電飾式観光マップに看板を掲出する。

ウ 輸出に取り組む事業者向け対策事業（日本茶輸出促進協議会より委託）

予算 3,510千円

(ア) 国内検討会の開催 予算 1,210千円

日本茶を緑茶のグローバル・スタンダードとし、日本茶の優位性を確立するため調査、検討する。

(イ) 輸出環境課題の解決にむけた取組み 予算 1,000千円

輸出先国の残留基準に適合するため、地域を限定した上で輸出に適合する栽培法を行う実証圃を設置して調査・検討する。

(ウ) 日本茶紹介パンフ等の多言語化 予算 1,300千円

海外における日本茶普及活動に不可欠な現地語の資料（茶の機能性）の作成。

2 収益事業

(1) 茶業会館の運営管理 予算 10,247千円

業界の拠点として、広く茶業者の利活用できるような明るい環境を整えるとともに、静岡県茶業会館の保全維持・管理ならびに円滑な運営を図る。

3 その他の事業 全体予算額 37,316 千円（共通経費 529 千円含む）

（１）委員会等開催費 予算 571 千円

財務委員会・事業委員会及び事務連絡会等を開催し、諸振興策を検討し、団体間の連絡調整を図る。

（２）会員団体助成事業 予算 36,216 千円

国内外の消費者に、安全・安心な静岡茶を供給するための栽培・製造指導及び、技術指導者・後継者の各種研修会を開催します。併せて本県茶業を維持・発展していくため、地域におけるリーダーを育成、国内外にて、静岡茶の販売力強化を図るため、県内各産地のPRに努め、また静岡茶ファンの獲得等推進するため、静岡県経済農業協同組合連合会へ助成事業を実施する。

静岡茶の普及のため情報の収集・発信を行い、健康的で文化的な食生活と食文化の維持、緑茶の効用や知識の普及、食育の推進等に関する施策を積極的に推進するため、静岡県茶商工業協同組合へ助成事業を実施する。

① 生産対策助成事業（県経済連へ助成） 予算 15,127 千円

ア 生産対策事業

（ア）安全・安心で多彩な静岡茶生産指導。

- ・国内外の防除基準作成、生産指導等を実施する。
- ・契約栽培検討、指導等を実施する。
- ・改植事業による品種普及を図る優良苗木の生産・供給指導の実施及び苗木許諾等の契約を実施する。
- ・栽培技術の優良事例発表や、各種表彰、生産者の意識統一等を目的に、茶業者集会を開催する。
- ・改植事業、燃油高騰対策等の補助事業を活用した指導を実施する。
- ・茶流通改革事業（茶取引近代化への取り組み）を実施する。

イ 後継者育成事業

（ア）静岡茶の品質・生産量を維持発展させるための後継者育成

- ・将来のリーダーとなる、JA茶技術員、若手生産者を対象に、生産から流通に至る研修会を開催する。
- ・全国の茶生産青年者による代表者会議、茶審査技術競技会を開催する。
- ・茶生産者を対象に、栽培・製造・経営等の資質向上を目的に研修会を開催します。

ウ 静岡茶消費拡大事業

（ア）JAグループ、行政等と連携し、消費地にて静岡茶の消費宣伝事業を実施する。

（イ）学校給食、新商品の開発等消費拡大対策を実施する。

（ウ）国内外での静岡茶の消費宣伝拡販を実施する。

② 静岡茶消費拡大助成事業（県茶商へ助成） 予算 21,089千円

ア 教育情報事業

インターネット等を通じての静岡茶に関する情報発信を行う。

イ 後継者育成事業

静岡県茶商工業協同組合の後継者等で組織する県市両青年団は、新茶販促企画をはじめ、お茶のおいしい淹れ方教室、母の日お茶プレゼント、その他各種の事業活動を幅広く展開しているのでこれを支援し、さらに充実した団活動と併せて団並びに団員の資質の向上を図る。

（ア）県市両青年団事業費助成

（イ）県茶青との共催事業・冷茶キャンペーン・静岡茶普及キャンペーン

ウ 地区事業

静岡県茶商工業協同組合の地区組合が実施する県内外で開催される消費者イベント等に協賛するとともに、静岡茶の消費拡大のため試飲サービス、サンプル・茶に関するリーフレットの配布などの静岡茶のPR事業を支援する。

4 その他関連事業

（1）全国お茶まつりの開催

お茶の生産、加工、流通の一大拠点であり、長い年月を刻んだ歴史と育まれた文化が市民の生活に息づいている静岡市で全国お茶まつりを開催することで、お茶の魅力を広く全国にPRし、お茶の需要拡大とお茶のあふれる生活、文化の広がりを目指す。

（2）静岡茶消費拡大緊急推進協議会

静岡茶の消費拡大対策を緊急に進めるため「静岡茶消費拡大緊急推進協議会」においてオール静岡の体制で推進する。

ア 事業目的

静岡茶の需要創出と消費拡大を主旨とし、県内の茶業関係団体が、緊密な連携の下に、オール静岡の体制で実施したトップセールスで築いた人のつながりを最大限に活用しながら、県外大消費地の大手量販店や茶の商工業組合と連携した販売促進事業を実施する。

イ 事業内容

・東京・大阪・名古屋・神奈川等の大消費地における静岡茶の販売促進事業

（3）新品種・新技術活用型産地育成支援事業

コンソーシアムによる「強み」のある産地を育成するため、新品種等の新技術等を活用し、生産・商工・行政が一体となって産地形成を図っていく。